

立憲民主党神奈川県総支部連合会

最高顧問 江田 憲司 様
代表 阿部 知子 様
幹事長 青柳 陽一郎 様

横浜市長選候補者擁立へ向けた政党間協議の申し入れ

4月の国政選挙において、野党は政党間の連携をすすめることで3連勝を収めました。コロナ拡大により市民生活が窮地に立たされている現状を顧みず、相も変わらず金権政治や五輪利権に汲々としている自公政権に対して国民は怒りを爆発させ不信任を突きつけました。

横浜でも世界規模でのコロナ蔓延によりIR構想は事実上破たんしているにもかかわらず、年頭林市長と市議会与党は市民によるカジノ誘致に関する住民投票の直接請求を退けると同時に国の予定に合わせ賭博事業者の公募を開始しました。これに対し私たちはこれまで住民投票を求め署名活動をすすめてきた「カジノの是非を決める横浜市民の会」を継承・発展させて、3月15日、カジノ誘致に反対し住民自治を尊重する市長の実現に向けた「カジノ反対の市長を誕生させる横浜市民の会」を結成しました。

8月22日に予定される横浜市長選挙ではカジノ誘致を阻止させるため必ず勝利しなければなりません。私たちはこの選挙を勝利に導くためには署名活動を地域で熱心に取り組んだ3万人を超える受任者と署名に応じた20万8000余の人たちを核としたカジノ反対運動の継承が極めて重要であると確信しています。加えて、候補者の一本化により選挙において市民に対しカジノの是非という明確な選択肢を示すことが求められます。

コロナ対応は酷暑の中での300万余の有権者に向けた選挙活動をさらに困難にすること必至です。既に市長選候補者として2氏が立候補を表明しています。さらに6月1日には元国会議員も新たに名乗りを上げました。これまで私たちは、野党第一党の貴党が「住民投票直接請求運動を進めた市民の思いを受け止め得る候補者を、責任をもって見出す」との考えを受け推移を見守って参りました。しかし、市長選挙告示まで2か月余りとなった今日に至るも候補者決定に至っていないことに憂慮を深めています。前回の市長選をみてもこれ以上候補者擁立を遅らせるべきではありません。候補者において、私たちは「カジノ反対、住民自治を取り戻す」という会設立の原点と住民投票直接請求運動の延長に今回の市長選挙があることから、私たちとともに汗をかき、運動を推進していただいた関係者・各級議員の中から候補者を見出すことが選挙戦を闘う上でも重要だと考えています。以上、早期に貴党の決定をいただき、政党間協議を進めていただくことを要望し申し入れいたします。

2021年6月3日

カジノ反対の市長を誕生させる横浜市民の会